

「大切にされたい気持ち」

これだけ日常的に「愛」という言葉を使うのは、牧師と結婚詐欺師くらいだ、というジョークを聞いたことがあります。確かに、昨今日本で恥じらいも無く「愛」を語る人は、かなり珍しいですね。ある牧師は、「教会で、こんなにも愛を語っているのに、妻には全く愛を伝えたことがない」と反省し、意を決してお連れ合いに「愛の告白」をしたことがあるそうです……。皆さんも、良かったらしてみは如何でしょうか。私は、遠慮しておきますけど。

今でこそ「愛」は、言うのは恥ずかしいけど、聞き慣れた言葉として認知されています。「愛」と聞いて、それは「仏教でいうところの執着だ」とか「男女の色恋沙汰に過ぎない」とか、そういう理解は少ないと思います。もちろん、執着や色恋という意味も残っていますが、多くの場合、「愛」とだけ聞くなら、もっと清らかで、温かなイメージを思い浮かべるはずです。

しかし、そういう「愛」のイメージが定着したのは、近代明治以降、日本に基督教のプロテスタント諸教派が本格的に流入してからです。それまでの日本語における「愛」とは、さっきも言ったように、煩悩的な執着とか、男女の色恋とか、あとは「可愛いものを愛でる」という意味で理解されることが多かった。もちろん、「仁愛」や「慈愛」など儒教・仏教の文脈における使用例はありましたが、「愛」単独での語りとなると、正しく伝わらない可能性があったんですね。なので、プロテスタントの宣教師たちは、最初、基督教の「愛」の教え、アガペーについて語ることにかなり苦労したそうです。聖書自体はすでに「漢語訳聖書」がありましたので、それを日本語に翻訳することは比較的容易でした。しかし、漢語訳聖書の「愛」という言葉を、そのまま日本人に語ると、神様の無尽蔵の憐れみや慈しみという意味は全く届かず、煩悩的な意味で誤解されかねなか

った。そこで、宣教師たちは「愛」と語るべきところを状況に応じて「大切」という言葉で代用しました。「神様はあなたがたを愛しておられる」ではなく、「神様はあなたがたを大切にしておられる」と言い換えて理解を促したんですね。そういう歴史的な流れの中で、「お大切」という言葉が用いられたという説もあります。正式な史実記録には残っていませんが、「神は愛である」と言うべきところを、「神様はお大切である」と言った、かも知れない、そんな伝承もあります。それは、宣教に心血を注いだ先人たちの知恵ある工夫であり、そして、なんかちょっと可愛いくて個人的には好きですね、「お大切」。

あと、「愛」という言葉によって、何となく包み隠されている大事な部分を「お大切」という言葉は明言してくれているように思います。私達も、今から 150 年程の前の宣教師に出会った人々のように耳を傾けてみたいと思います。「神様は、あなたを大切にしてくれる方ですよ」と。さらに付け加えるなら、「御自分の掛け替えのない御子イエス・キリストをお与えになったほどに」ですね。そこまで神様に大切に思われて、私たちは今日も生きている。その信仰から始まる感謝の想いを、それこそ大切にしていきたい。

人類史上、比較的穏やかな時代を生きている私たちは、今日明日の命の危険を感じることなく過ごしています。しかし、今日の聖書箇所が含まれる「ヨハネの手紙」が書かれた時代は、少なくともキリスト教にとっては、危険な時代でした。基本的に「ヨハネ」という名の付く書物は、イエス様が活躍された時代から 70 年程経った頃に成立し、その当時、キリスト教はローマ帝国において生きづらい状況に置かれていました。ローマ帝国内の雰囲気や慣例が、キリスト教を受け付けなかったんですね。ちょっと語弊を恐れずに言うなら、ヨハネ系の書物とは、外部からの圧力や嫌悪を身に受けながら、内部の結束と平和を強く求めている時代に書かれたものであり、それは結果的に、外部への攻撃性や内輪だけの讃美に傾いていた、と表現できます。もちろん、そこには初期キリス

ト教の弱さや必死さがあったわけですが、その歴史背景は押さえる必要があります。新共同訳聖書において、このヨハネの手紙一の、次なる第5章の小見出しが、まさに象徴的です。「悪の世に打ち勝つ信仰」という。内側の結束と、外側への対抗が、ヨハネ系書物には表れています。

だから、私たちが、このヨハネの手紙などを読む時には、ちょっと気を付けないといけない。外からイジメられているワケでも、追い詰められているワケでもない、現代日本の教会が、ヨハネ系書物のメッセージを文字通りに受け止めたら、それは、まさに時代錯誤になってしまいます。「紀元90年や100年の頃の教会は大変な経験をしたんだな、そこで愛の教えがとても必要だったんだな」と、そういう歴史背景を組み込んだ読み方をしていく必要があるでしょう。

イジメられた経験のある方、追い詰められた経験のある方は、多分、分かるかと思いますが、「愛される」「大切にしてもらえる」って、とても温かく、大事なことですよね。どんな立派な道德の話よりも、高尚な倫理の教えよりも、たった一度でも良いから、誰かに「大切にしてもらえる」という経験を味わう方が、ずっと心に響きます。今日の聖書のお話も、もちろんアガペーというギリシャ語の言葉の解説や、神様が私たちのうちに留まってくださる、ということの神学的解釈を詳しく語ることで、立派な説教にすることもできます。でも、今日は、そういう難しい話は止めておいて、さっきから何度も言うように「神様は、あなたを大切にしてくれる方ですよ」「神様はお大切なんですよ」ということを心から味わいたいと思うのです。

その味わいとは、最近の出来事で言いますと、無事にクリスマスをお祝いし、祝会も楽しかったこと。無茶な計画で雨だったけどキャロリングができたこと。歌声を聞いてもらえたこと。蝋燭の火を沢山のひとと分かち合い、茶話会で笑い合えたこと。まずは、そういうところから生まれてくる味わいがあります。そして、もちろん、他にも日常の微かな、でも、誰もが経験できるところに神様の「お大切」はあります。極論、誰かに挨拶をされるだけでも、それは有り難いことです。あな

たのことを認めて、話しかけてくれる人がいるだけで、あなたの価値は揺るぎない。神様の愛とは、お大切とは、そういう細やかな日常の中に見つけて、数えていくものだとは私は思っています。その小さいかも知れない、微々たるものかも知れない、愛の手触り、お大切の実感を心に留めて、私たちは、明日を期待して歩む信仰を頂いて生きていく者なのでしょう。

「愛」という言葉を使うのも、少々恥ずかしいかも知れませんが、今日は、「愛されたい」「大切にされたい」という正直な願いを包まず述べて、新年を明るく元気に踏み出すための力を神様から十分に頂きたいな、と願うものであります。お祈りを致します。

神様。

今日、私たちは 2025 年最後の聖日礼拝に、こうして招かれ、敬愛する方々と共に祈りと賛美のひと時を与えられております。今日、この場に私たちを呼び集めてくださり、心から感謝致します。あなたは聖書に記された大昔から、数えきれない人々の心を支え、信仰を強め、常に愛を注いで、今日の教会を整えてくださいました。今、私たちが手で触れることのできる、あなたの御手や、耳で聞き取ることのできる、あなたの御声はありません。しかし、あなたに愛されていることを感じ取り、大切に生かされていることを信じた方々がいて、その方々が残した信仰の言葉、この教会という財産を、私たちは受け取っています。そのことに感謝しつつ、あなたから頂いている恵みを数えて、明るく新しい 1 年に向けた希望へと、私たちを導いてください。あなたに愛され、大切にされていることを信じて、幼子のように、あなたを慕い求める私たち一人一人のことを祝福で満たしてください。このお祈りを我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。

1月召天者を憶える祈り

聖書：ヨハネによる福音書 14 章 1～4 節

「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとの迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」

笹本きく ささもと きく 姉 (2011 年 1 月 7 日召天)

児玉栄美子 こだま えみこ 姉 (2013 年 1 月 7 日召天)

中溝嘉伊蔵 なかみぞ かいぞう 兄 (1962 年 1 月 11 日召天)

田代良枝 たしろ よしえ 姉 (1990 年 1 月 13 日召天)

柴田卓三 しばた たくぞう 兄 (1931 年 1 月 15 日召天)

口野はる代 くちの はるよ 姉 (1971 年 1 月 20 日召天)

中村裕典 なかむら やすのり 兄 (2021 年 1 月 24 日召天)

橋本靖子 はしもと やすこ 姉 (2017 年 1 月 29 日召天)

野尻まつお のじり まつお 姉 (1931 年 1 月 30 日召天)

大竹雅子 おおたけ まさこ 姉 (2015 年 1 月 30 日召天)

福井まきの ふくい まきの 姉 (1998 年 1 月 31 日召天)

神様。

私たちは今、敬愛すべき信仰の先達を憶えて祈りを合わせています。新年と到来を喜ぶ 1 月に、あなたの御許へと召された方々は、この地上にある間、祈り、働き、慰め、感謝し、あなたの語られた御言葉を聴いて、隣人を愛するという尊い業に励んで来られました。どうか、そのことをあなたが御心に留めて、相応しい祝福と恵みを注いでください。地上における労苦は、必ず天の国において報われるという真実を、どうか豊かに示してください。また、未だ、この地上にあって、あなたから頂いた、それぞれの業に励む私たちを顧みて、励ましと癒しをお与えください。天上の友に恥じることの無い、信仰の歩みをこれからも為すことができますように。御支え、お導きください。天の上には永久の平安がありますように。地の上には豊かな慰めと励ましがありますように。祈り求めます。

この祈りを我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。